

## 可茂農林事務所の普及活動状況（9月）

### 今月の重点活動

#### ■美濃白川就農応援会議（研修拠点）

#### PR動画撮影

9月15日、美濃白川就農応援会議のPR動画の撮影が、白川町内の研修ほ場にて行われました。

あすなる農業塾長と研修生が出演し、夏秋トマトの収穫や米の稲刈りなどの研修風景、研修生の就農に向けた夢などのインタビューが収録されました。生の声を聞きたいとのリクエストで、事前のシナリオはなく、インタビュアーが上手に塾長や研修生から話を引き出して撮影は進行しました。

PR動画は、岐阜県内の就農・就業情報の発信をしている、ぎふ就農ポータルサイト『ぎふっ晴°れ』で公開される予定です。



【あすなる農業塾長インタビュー】

（地域支援第二係・加藤昌亮）

### 売れるブランドづくり

#### ■水稲 「コシヒカリ」倒伏対策実証ほ調査

富加町の農家から、水稲の倒伏対策について相談があり、茎を固くして倒伏しにくくなる資材として知られているケイ酸カリの散布効果の実証ほ場を設置しました。

効果を判断するため、8月31日と9月8日の2回に分けて「押し倒し抵抗値」を計測しました。

結果として、ケイ酸カリ散布区は、慣行区より1割ほど値が高く（固い）、かつ、収量も1割ほど高いなどケイ酸カリの効果がみられました。

農林事務所は、この結果を農家に示し、今後、倒伏しやすいほ場にはケイ酸カリの散布を推奨していきます。



【押し倒し抵抗値の調査】

（地域支援第一係・宮地雄二、斉藤政隆）

#### ■大豆（中鉄砲）

#### ドローンによる開花期防除実施

可児地域では、2法人が可児特産大豆「中鉄砲」の栽培に取り組んでいます。

御嵩町の農事組合法人では、播種作業を6月に開始したものの、長梅雨の影響で7月は作業が進まず、8月までずれ込んでしまい、6月播種ほ場は8月中旬、8月播種ほ場では9月上旬に開花期を迎えました。

農林事務所から紫斑病・カメムシ類などの防除適期に関する情報を提供し、8月29日および9月20日にドローンによる開花期及び登熟期防除が実施されました。

引き続き大豆の生産安定に向けた支援を行っていきます。



【ドローンによる防除】

（地域支援第二係・加藤瑞穂）

### ■ いちご 適期定植のために花芽ができ始めたかを顕微鏡で確認

今年は、7月の長雨日照不足に続いて8～9月上旬には高温となり、生産者は遮光やかん水に例年より一層の注意を払った育苗管理となりました。

9月中旬は促成いちごの定植時期になるが、いちごは体内に花の基ができていることを確認してから定植しています。定植時期を見極めるため、農林事務所では生産者から苗を預かり、花の基ができているか（花芽分化）を顕微鏡で確認（花芽検鏡）しています。

今年は全体的に花芽分化が遅れていることから、植え付けるハウスの準備は整っているものの、まだ定植が始められない状態です。

今作も、安定した出荷を目指して、花芽検鏡結果を生産者に伝えて適期の植え付けを指導していきます。



【花芽検鏡の様子】

（園芸産地支援係・熊澤良介）

### ■ トマト 農大校外学習で夏秋トマト産地を案内

9月14日、県農業大学校の2年生13名が、校外学習として美濃白川トマトの視察に訪れました。

1か所目は、美濃白川夏秋トマト部会長のほ場にて、部会長自らの白川地域におけるトマト栽培の取組み（工夫している点）などについて説明があり、トマトを専攻している学生からは、技術的な質問も多数ありました。農林事務所からは白川トマト産地の特徴（移住者の積極的な受け入れによる担い手確保など）について紹介しました。

2か所目では、トマトを活用した6次産業化を進めている法人を、3か所目（最後）はJAトマト選果場を視察した。学生はそれぞれの視察先で熱心に質問等行いました。

若い担い手の確保のため、今後も農業大学校との連携を継続していきます。



【トマト部会長の圃場視察の様子】

（園芸産地支援係・矢嶋雄二）

### ■ 栗 可児市栗振興会特選栗部会で栗の出荷がはじまる

可児市特選栗部会は、収穫した栗を市内の菓子店に納める生産者10名で構成されており、「超低樹高栽培」で生産した栗のみを特選栗として販売しています。「超低樹高栽培」の栗は生産性が高く、反収は地域平均のおよそ2倍の200kg以上となり、品質も大粒になりやすい特徴があります。

今年度は昨年より1週間収穫開始が早く、8月26日に出荷先の可児市内の菓子店にて目揃え会が行われました。部会員は普及指導員から病虫害防除や新品種の説明を聞いた後、目揃えを行いました。今年度は梅雨が長く、高温乾燥にさらされる期間が比較的短かったこともあり、収穫前に落果する割合は約16%と昨年の半分以下となりました。

今後も、特選栗の生産量が増加していくよう剪定指導等を行っていきます。



【栗の選果作業のようす】

（園芸産地支援係・宮田洋輔）